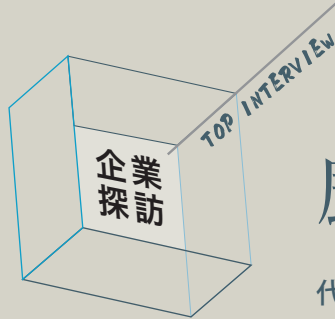




鹿島物流株式会社

代表取締役社長 宮崎 周二氏

取締役常務 大森 洋展氏

本 社 茨城県神栖市南浜1-1
設 立 1990年2月
社 員 数 2024年9月現在 92名
事 業 概 要 貨物輸送業(陸・海・空)、
倉庫業、工場内作業請負業



株式会社筑波銀行
神栖支店長
小林 英将

鹿島物流株式会社
代表取締役社長
宮崎 周二氏

鹿島物流株式会社
取締役常務
大森 洋展氏

筑波総研株式会社
代表取締役社長
木村 伊知郎

お客様のニーズに応え 企画・提案・実行する総合物流企業へ



事業概要を説明する宮崎周二社長

幅広い商品の保管・流通加工・運送を手がける総合物流企業

まずは御社の事業概要についてお聞かせください。

当社は、食品をはじめ、日用品、薬品、医薬部外品、化粧品など、幅広いメーカーの商品の保管、流通加工、運送を手がける総合物流企業です。物流に関する業務を一貫して行うことで、お客様のコストの削減や業務の合理化に寄与し、ビジネスの発展に貢献することを目指しています。

現在、当社は茨城県内の3か所を拠点に物流事業を行っています。本社・南浜営業所は鹿島臨海工業地帯内の神栖市に、潮来営業所は東関東自動車道潮来IC隣接地に、つくば支店は常磐自動車道谷田部IC隣接地に立地しています。

それぞれの拠点で「常温」「定温」「危険物」の3種類の倉庫を有し、商品の保管に加え、商品の仕分け・包装・梱包などの流通加工、運送を行っています。

輸送体制は、衝撃緩和を考慮したエアサス車を配置して荷物にやさしい輸送を心がけるほか、ウィング車を採用し、商品の積み下ろし作業の迅速化、効率化を図っています。

主な輸送エリアは、茨城県をはじめとする関東エリア、山梨県、静岡県、福島県、宮城県などですが、全国を網羅した協力会社とのネットワークにより、全国各地への輸送も行っています。

厳しい船出となった設立当時

会長が物流会社に20年勤務した後、1990年に現在の神栖市に配送センターを設置し、運営されたとのことですが、神栖市を選ばれた理由について教えていただけませんか。

創業者である会長の宮崎良之氏は、学校卒業後に鹿行地区にある物流会社に就職し、20年近く勤務して



インタビュー日/2024年10月2日
(聞き手：筑波総研株式会社 代表取締役社長 木村伊知郎)
取引支店：株式会社筑波銀行 神栖支店

いました。勤務年数が長くなるごとにデスクワークが増えていくなかで、現場で営業を続けることに魅力を感じていたため、独立を考えるようになりました。独立して会社を立ち上げるなら、製鉄関連ではなく化学関連の仕事の方が将来的な発展が見込めるのではないかと考え、鹿行地区の中でも化学関連の工場の多い神栖地区に設立しました。

しかし、設立当初は資金繰りも大変だったそうです。知り合いからの情報も乏しく、人の確保も思うように進まなかったことから、「金・情報・人財」の3本柱がないと会社経営は厳しいことを痛感したと聞いています。

外国荷物の取り扱いをきっかけに事業が順調に推移

1997年から2001年にかけて、現神栖市内に複数の倉庫を建設し、それぞれ保税蔵置場の許可を取得されましたが、どのような需要があったのでしょうか。

当社の立地する鹿島臨海工業地帯は、鹿島港が近くにあることから、海外からの船舶荷物を取り扱っている企業が多くありました。

当時、インドネシアから合板を輸入している物流企業が輸入荷物の保管倉庫を必要としていたことから、当社は自社倉庫2か所の保税許可を東京税関で取得し、保税蔵置場としました。

これによって事業も軌道に乗りましたが、5年後には合板の輸入が減少したことから、取り扱う商品の品目を食品や日用品、薬品、医薬部外品、化粧品などに増やしました。これらの商品の保管・流通加工・運送の業務を担うことで、その売上が合板を上回るようになり、事業は順調に推移しました。

パレット洗浄機の導入により
スピーディーでローコストの
洗浄を実現



最大の危機を乗り越え つくば支店で新規顧客を獲得

創業されてから順調に売上を伸ばしていたところ、取引先の関係から、大きく売上が減少し会社自体が大変だったとお聞きしましたが、どのように切り抜けられたのでしょうか。

当時、運送のみならず保管と仕分け・包装・梱包も請け負い、売上の50%を占めていた顧客の商品が、安全性の問題から販売中止となっていました。そのときはパート従業員を130人超雇用していましたが、翌日から製造ストップという大きなピンチに陥りました。

大きく売上が減少したことから、資金繰りがタイトになりました。各金融機関に借り入れの打診をしましたが、大きく売上が落ち込んでいることから良い返事がもらえずに困っていたところ、筑波銀行さんから良い提案をいただき、資金繰りの安定を図ることができました。筑波銀行さんには本当に感謝しています。

資金繰りの心配がなくなったことで、新しいお客様の獲得にも努めることができました。つくば支店では製薬会社との新規取引も始まり、新倉庫も軌道に乗り出したことで売上も回復し、利益も確保できるようになりました。

新規事業として パレットの洗浄業務をスタート

樹脂パレットの洗浄業務について、需要や頻度はどの位あるのでしょうか。また、南浜、つくば、潮来の拠点それぞれで実施しているのでしょうか。

樹脂パレットの洗浄業務は、2007年に新規事業として南浜営業所でスタートし、現在でも南浜営業所だけで業務を行っています。

食品の保管・輸送に利用されるパレットは、商品の品質管理、衛生面から毎回洗浄しなければなりません。当初は人力で、1日約400枚のパレットを15人体制で洗浄していたのですが、従業員の負担やコストを考慮し、パレット洗浄機を導入することにしました。

パレット洗浄機の導入により、パレットの投入後はライン上で洗浄・脱水・乾燥の一連の作業が自動でできるようになりました。人員はパレットの投入と取り出し、検品を行う2人で済み、1時間100枚、1日800枚の洗浄を行っています。スピーディーかつローコストのパレット洗浄を実現した結果、受注が増え売上も伸びています。

労働時間管理のデジタル化で 2024年問題に対応

運送業務においては、2024年問題により長距離輸送をやめたり時間外管理を厳しくしたりしているところがあります。御社ではどのように対応されているのでしょうか。

今年に入り、本社・南浜営業所の車庫が手狭になったことから、神栖市内の息栖地区に本社第二車庫を新設しました。工場や倉庫が立ち並ぶ本社・南浜営業所の周辺には住宅が少なく、ドライバーの通勤に時間がかかることが課題でしたが、息栖地区に新車庫を設けたことで、ドライバーの通勤時間も30分程度短くなり、労働環境改善の一つになっています。



従業員が長く働き続けられる職場環境
づくりに取り組んでいます

また、2024年問題対策の一環として、車庫の新設に合わせてIT点呼機器を導入しました。以前は営業所で対面点呼を行っていたのですが、パソコンを使って営業所と車庫をつないで遠隔点呼ができるようになり、同時にアルコールチェックも可能となりました。

労働時間管理をデジタル化し、以前はドライバー任せだった車庫からの出発時間を規定時間内に定めることで、帰社時間などの時間管理を容易にできる環境を整え、労働時間管理に対応しています。

また、点呼業務の人員削減を目的とした遠隔点呼をつくば支店との間で開始し、2025年に乗務前自動点呼を試験的に導入する予定です。

長距離輸送は拘束時間の関係で自社便での輸送は低減しましたが、協力会社との連携を強化したことで受注は増加傾向にあり、今後も安定したサービスを提供できる体制を整えていきます。

多くの女性従業員が活躍

御社では女性の従業員の方も多いと聞いておりますが、割合はどの位で、どのような分野で活躍されているのでしょうか。

当社の従業員は会社全体で92人です。そのうちの約4割が女性従業員で、地元の神栖をはじめ、潮来、行方、千葉県の銚子や旭、香取などの周辺地域から多くの方に来ていただいています。

主な担当業務は、事務や仕分け・包装・梱包などを行う流通加工、ピッキングの分野です。なかでも流通加工を担当する従業員が最も多く、南浜営業所で25人、つくば支店で5人が担当しています。

ピッキングはつくば支店のみの業務で、各倉庫に1人ずつ配置しています。出荷指示に従って入浴剤や洗口液などの入ったケースを商品棚から集め、台車で運んで出荷を準備する業務です。

働きやすい職場環境づくりで 長く働き続けられる企業へ

全国的に人手不足が問題となる中で、人財の確保や定着についてはどのような取り組みをされているのでしょうか。

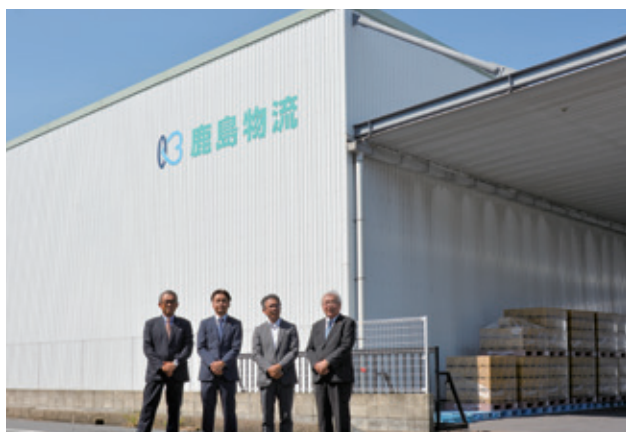
物流業界では人手不足が深刻化しています。当社も例外ではなく、数人の人手が足りないという状態が慢性的に続いています。そのようななかでも、当社では約2年前から週休2日制を導入し、年間休日を122日することで労働時間を短縮し、働きやすい職場環境を整備しました。年間休日が大幅に増えたことで、従業員たちも大変喜んでいます。

また、従業員の福利厚生としてさまざまな社内イベントを実施しています。食事会や忘年会、ボーリング大会、バーベキューなど、従業員同士の親睦の場を多く設けることで、社員間のコミュニケーションの促進を図っています。

人財確保については、従業員からの紹介や求人媒体を利用した人財の確保に努めています。

こうした取り組みにより、当社に入社した従業員が長く働き続けられる企業、従業員の定着率の高い企業を目指します。

事業拠点



神栖市にある本社・南浜営業所



危険物倉庫を完備のもと医薬部外品や化粧品を中心に扱うつくば支店



定温倉庫を完備のもと食品を中心に扱う潮来営業所

倉庫・流通加工



食品や化学工業品など一般品を保管する「定温倉庫」。空調設備を完備して温度を20℃～25℃に設定。警備会社との連携によりセキュリティも万全

輸送体制



大型ウィング車21台、中型ウィング車1台が稼働。グループ会社と合わせ110台余が稼働しています。

営業エリアを拡大し 100年続く成長企業へ

1990年創業で30年を超えておりますが、今後も鹿島臨海工業地帯で運輸・倉庫業を継続していくにあたっては、どのようなことを取り入れていきたいとお考えでしょうか。

当社はこれまで、茨城県内の神栖・つくば・潮来の3か所に物流拠点を構え、首都圏に近いという利便性の高さを活かし、定温倉庫や危険物倉庫といった倉庫需要の高い顧客をターゲットとした営業活動に積極的に取り組んできました。

足元の神栖地区では、グループ会社の茨城ロジスティ

クス株式会社などと共に倉庫の数を増やし、2024年11月からは本社・南浜営業所に新設した定温倉庫が稼働を開始します。鹿島港に近いことから、輸入荷物を扱う保税倉庫の需要も期待できます。

つくば地区、潮来地区では、隣接する高速道路を意識した物流倉庫を検討していきたいと考えています。高速道路については、東関東自動車道の銚田・潮来間の開通、鹿行南部道路の潮来・波崎間の新設などの予定があり、各インターチェンジ付近への倉庫の新設など、お客様の動向、ニーズを捉えたなかで流通業務の獲得を図っていきます。

また、今後は都心部近郊に物流施設の新設や顧客のニーズに沿った倉庫設計や設備導入に力を入れていきたいと考えています。



消毒液や各種原料となる危険物品を保管する「危険物倉庫」



流通加工を行う「加工場」が2か所あり、食品・日用品・医薬部外品・化粧品など幅広い商品の仕分け・包装・梱包を行っています。写真は「第二加工場」での菓子の箱詰め業務



神栖市内息栖地区に新設した本社第二車庫

グループ企業



茨城ロジスティクス株式会社



株式会社ロジコムつくば

特に当社は、現在、多くの大型物流倉庫が高速道路沿いに建設されておりますが、そのような大型倉庫とは一線を画し、神栖、つくばで培った多品種、少ロットから大ロットの製品を配送、保管、梱包まできめ細やかな対応力、同時に、定温、危険物倉庫など特定顧客にも対応できるノウハウを生かし、京葉、柏・松戸地区へ進出し、新たな顧客を取り込んでいきたいと考えております。

当社の強みは、単に倉庫に商品を保管するだけでなく、流通加工・倉庫内付帯業務など、さまざまな付帯業務、輸送業務を一貫して行う“総合物流サービス”を提供できることです。これからも長年培ってきたノウハウを生かしつつ新しい分野にもチャレンジし続け、50年、100年と成長していく企業でありたいと考えています。